

台風による倒伏樹の根の切断程度と生育

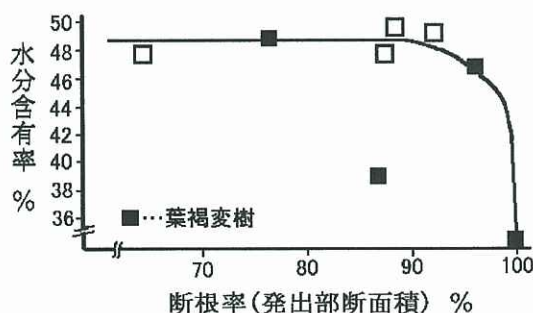
研究のねらい

台風で倒伏したリンゴ樹の根の切断程度が生育に及ぼす影響を明らかにする。

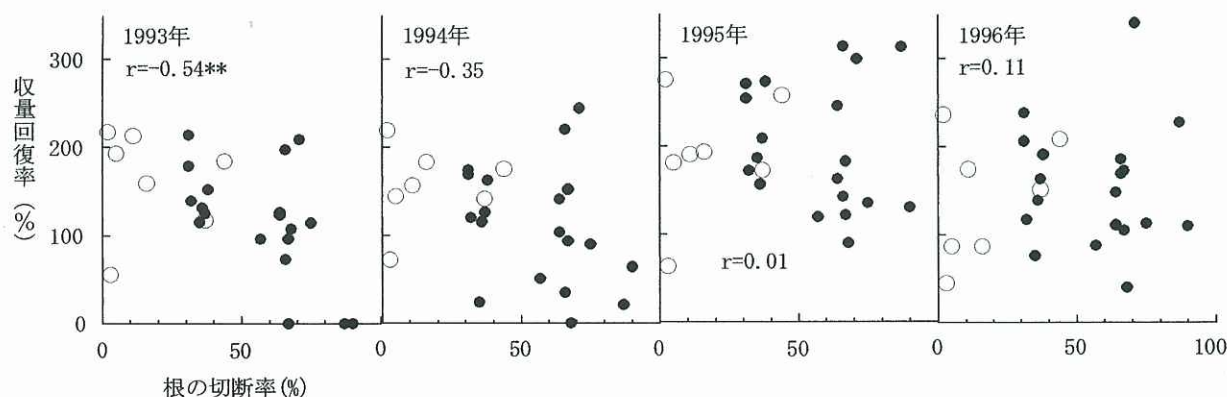
研究の成果

9119号台風による倒伏樹の根の切断割合は倒伏程度が大きいものほど高く、太根の被害率が高いものほど翌年の樹勢が弱まる傾向にあった。完全倒伏樹での断根率が90%以上のものでは新しょうの水分含有率が急激に低下した。また、翌年の樹勢が著しく弱い樹や枯死樹の中には、倒伏後に葉が褐変したものが多かった。

台風被害を想定した倒伏・断根処理を実施した場合でも、根の切断率が50%以下の木では翌年の収量に大きな影響は見られなかった。切断率が50%以上の木でも1～2年間樹勢に合わせた着果制限を行うことで、3年後には収量が倒伏・断根処理以前の水準まで回復した。



第1図 完全倒伏樹の断根率と新しょうの水分含量との関係



第2図 根の切断率と倒伏・断根処理後4か年の収量回復の関係

注) ●：人為倒伏処理樹、○：人為倒伏無処理樹、**：1%水準で有意

発表資料

1. 福田典明ら (1993). 台風9119号による倒伏リンゴ樹の根系被害とその後の生育. 東北農業研究 46: 183-184.
2. 東北農業試験研究推進会議・北陸農業試験研究推進会議 (1996). 落葉果樹の台風被害対策技術の確立. 地域重要新技術開発促進事業研究成果 No.25.
3. 外崎武範 (1997). リンゴ樹の台風被害を想定した根の切断程度が木の生育と収量に及ぼす影響. 東北農業研究 50: 153-154.